

施設介護や居宅介護に携わる介護者のためのユニフォーム提案

○近藤信子* 田岡洋子** 福村愛美*³ 中川早苗*⁴(*中国短大, **京都短大, *³大分県立芸術文化短大, *⁴奈良女大)

【目的】介護の社会化を目指す介護保険制度の実施に伴い、介護の現場で活躍する介護者はこれからますます増加するものと思われる。現在、施設介護や居宅介護に携わっている介護者が着用している介護服の多くは、市販のユニフォームやジャージーなどのスポーツウェア、あるいは私服などで問題点も多く必ずしも介護に適しているとは思えない。そこで本研究では、実際に介護に携わっている介護者を対象に、現状の介護服の問題点や介護服に求められるニーズなどについて意見を収集し、介護者にとっても介護される高齢者にとっても望ましいユニフォームについて検討し提案しようとするものである。

【方法】京都府・岡山県・大分県内の施設で介護に携わっている介護者を対象に1999年8月から10月にかけて配票留置法による質問紙調査を行った。有効回収数は327票であった。主な質問項目は、現在着用している介護服の種類と問題点、介護服の評価（5段階評定尺度）、介護服のイメージ（5段階SD評定尺度）などである。

【結果】現在着用している介護服では、ポロシャツとジャージーの下の衣（春秋・夏）、トレーナーとズボン（冬）の組み合わせが多かった。そして問題点としてあげられた記述をKJ法により分析したところ、大きくは機能性・審美性・経済性に集約された。